

# 交流及び共同学習「音楽科」における合理的配慮

実践及び教員へのインタビューからの一考察

○岡本 星

(社会福祉法人福祉楽団 杜の家なりた事業部)

KEY WORDS: 音楽科 交流及び共同学習 合理的配慮

## 【目的】

交流及び共同学習はインクルーシブ教育の理念を具現化するものである。その交流及び共同学習が最も行われている「音楽科」<sup>1)</sup>において、合理的配慮を充実させていくことは、教科学習における合理的配慮の事例を積み重ねるといふ点で重要であると考えられる。

本研究では、小学校「音楽科」(交流及び共同学習)授業実践、及び「音楽科」担当教員へのインタビュー(全6項目)を行う。そこから、交流及び共同としての「音楽科」における合理的配慮について検討することを目的とする。

なお、本研究は、筆者の平成28年度修士論文<sup>2)</sup>を抜粋し、本発表用にまとめたものである。

## 【方法】

特別支援学級在籍児童が交流及び共同学習として参加する通常学級にて、「音楽科」授業を行った。※本研究実施にあたって、市立Y小学校からの承諾をいただいた。

- 実施場所：市立Y小学校
- 実施クラス：6年aクラス
- 参加児童：40名(交流児童3名を含む)
- 実施回数：1回(X年7月中旬)  
※授業実践にあたり事前の授業見学を6回実施
- 担当教員：音楽専科教員
  
- 単元：リズムアンサンブル(全4時間)
- 本時の目標：三人一組になり、響きのよい組み合わせでリズムアンサンブルを演奏しよう。(2/4時間目)
- 授業内容：リズムアンサンブルの創作活動

## 【結果】

授業実践の学習指導案(抜粋)を表1に、「音楽科」担当教員(音楽専科)へのインタビュー結果(抜粋)を以下に示す。

- 参観した感想  
障害の有無に関わらず、一人ひとりが持つ能力が違うため、特別支援学級在籍児童に対する配慮が、通常学級全体への配慮になると感じた。
- 交流及び共同学習としての「音楽科」について  
音楽は障害の有無にかかわらず、あらゆる能力の児童を受け入れる幅がある。誰にとってもとつきやすいものである。リズム、演奏、歌唱、などいろんな側面(活動)があるため、児童の得意、不得意にも対応しやすい。

## 【考察】

〈音楽そのものの特性が合理的配慮となる〉

「音楽科」担当教員は、交流及び共同学習としての「音楽科」について、音楽そのものの特性である活動内容等の多様さが個別のニーズに対応できるものであると指摘している。本研究の実践においても、筆者が行なった合理的配慮は、楽器やリズムという個別に対応できる音楽の特性を活かしたものであった。

〈合理的配慮が全体への配慮につながる〉

渡邊ら(2015)<sup>4)</sup>の調査では、通常学級に在籍する発達障害の児童への配慮について、医学的診断がついている、または通級指導教室を利用している児童の方が、教員からの支援や配慮を受けていることが明らかになっている。また、その配慮は個別より学級全体に対して行われている。ここから、通常学級授業に何らかの障害がある児童が参加することで、教員の全体への配慮がより多く行われる傾向があると言えるだろう。

本研究では、表1に示した通り、交流児童への合理的配慮を学習指導案に明記し授業を行なった。その結果「音楽科」担当教員からは、交流児童への合理的配慮が通常学級全体への配慮になっていたとの意見が得られた。

渡邊ら(2015)の調査は通常学級在籍児童のみを対象とした調査であるが、特別支援学級在籍児童が交流及び共同学習として通常学級授業に参加する場合も、そうでない学級より教員の全体への配慮が行われるのではないかと、本研究はこのことの裏付けとなり得ると考える。

以上のことから、盛んに行われている交流及び共同学習としての「音楽科」において、より音楽そのものの特性(活動内容等の多様さ)を活かした合理的配慮が提供されていく必要があると考える。

## 【文献】

- 1) 藤本裕人ほか：特教研C-70「交流及び共同学習」の推進に関する実際研究。国立特別支援教育総合研究所，2008。
- 2) 岡本星：インクルーシブ教育と音楽療法—小学校「音楽科」授業実践から見えてきた音楽療法の視点の有効性一。2017。
- 3) 中央教育審議会初等中等教育分科会：共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進(報告)。2012。
- 4) 渡邊健治ほか：特別な配慮を必要とする児童への小学校における取り組みに関する調査。畿央大学教育学部現代教育学科，畿央大学紀要第12巻，第2号，2015。

表1 学習指導案(抜粋)

学習内容・予想される児童の反応	予想される交流児童(A,B,C)の反応	合理的配慮	学校における合理的配慮の観点 <sup>3)</sup>
楽器の組み合わせや重なり合いのリズムを考える。	B:リズムをとることはできるが自分で譜面を書くことは難しい。楽器を決めるのに時間がかかる。	リズム譜の空欄を、音符カードを選択し埋める。	1-2-2 学習機会や体験の確保
			1-1-2 学習内容の変更・調整
		選択肢となる楽器カードを提示し、Bが選択する。	1-2-1 情報・コミュニケーション及び教材の配慮
			1-1-2 学習内容の変更・調整

(OKAMOTO kirara)